第6章　計画の基本理念・基本方針・計画目標

1. 基本理念・基本方針・計画目標

3つの課題を解決すべく、本計画の基本理念を以下に示します。

誰もが利用しやすく、快適に移動ができる

地域公共交通ネットワークの維持・形成

≪基本方針≫

玉名市の様々な交通資源（鉄道、路線バス、一般タクシー、乗合タクシー等）を効果的に活用しながら、まちづくり等の戦略と連携を図り、持続可能なものとすることで、年齢や居住地域等に関係なく、誰もが快適に外出・移動することができる、一体的な交通環境づくりを進めます。

≪計画目標≫

1　既存の地域公共交通を基本とし、
持続可能で移動ニーズに即したネットワークの形成

2　利用促進及び認知度向上を図り、未来へつなぐ地域公共交通の実現

3　多様な関係者等との連携による地域公共交通の確保・支援

2. 地域公共交通の機能分担

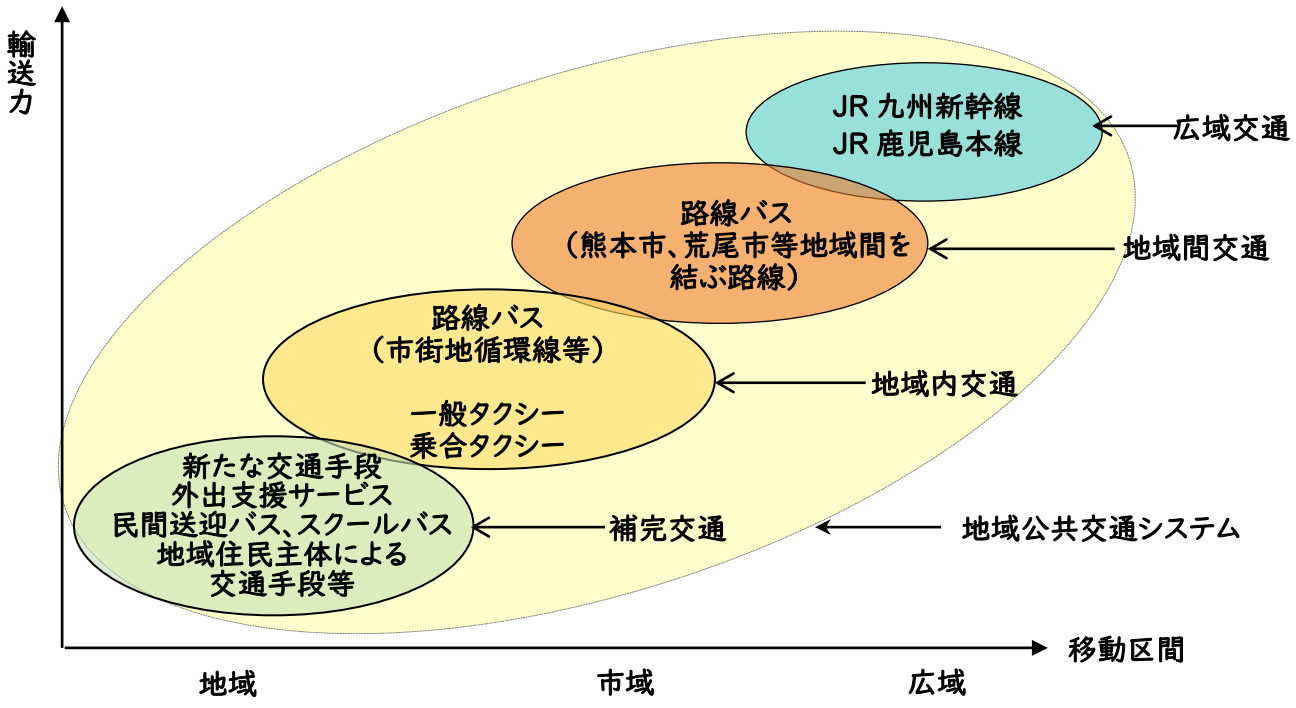
本市の地域公共交通ネットワークの方向性は、以下のとおり4段階に機能分担を図ります。

これらの交通結節点としては、玉名駅等を位置づけ、既存の地域公共交通ネットワークを基本としながら、地域公共交通機関の相互連携により、市民や来訪者の移動手段として機能させることで、利便性の向上と効率的な運行を目指します。

【各交通手段の機能分担】

区分	役割分担	地域公共交通システム
広域交通	○熊本市、荒尾市等の近隣自治体及び福岡方面へ連絡し、地域の基幹となる路線 ○通勤・通学、買い物、観光等の多様な目的に対応	JR 九州新幹線 JR 鹿児島本線
地域間交通	○近隣自治体への連絡及び市内の基幹となる路線 ○通勤・通学、買い物、観光等の多様な目的に対応	路線バス（熊本市、荒尾市等地域間を結ぶ路線）
地域内交通	○広域交通・地域間交通に接続する路線 ○市内の各拠点間の連絡 ○地域の実情に合わせて通勤・通学、通院、買い物、観光等の目的に対応	路線バス（市街地循環線等） 一般タクシー 乗合タクシー
補完交通	○鉄道、バス交通等を補完し、主に高齢者等の移動を担う路線 ○地域の実情に合わせて通学、通院、買い物等の目的に対応	新たな交通手段 外出支援サービス 民間送迎バス、スクールバス、地域住民主体による交通手段 等
交通結節点	○上記交通システムの乗り継ぎ拠点となる鉄道駅や、主な集客施設等における乗り継ぎ環境機能を強化	玉名駅、新玉名駅

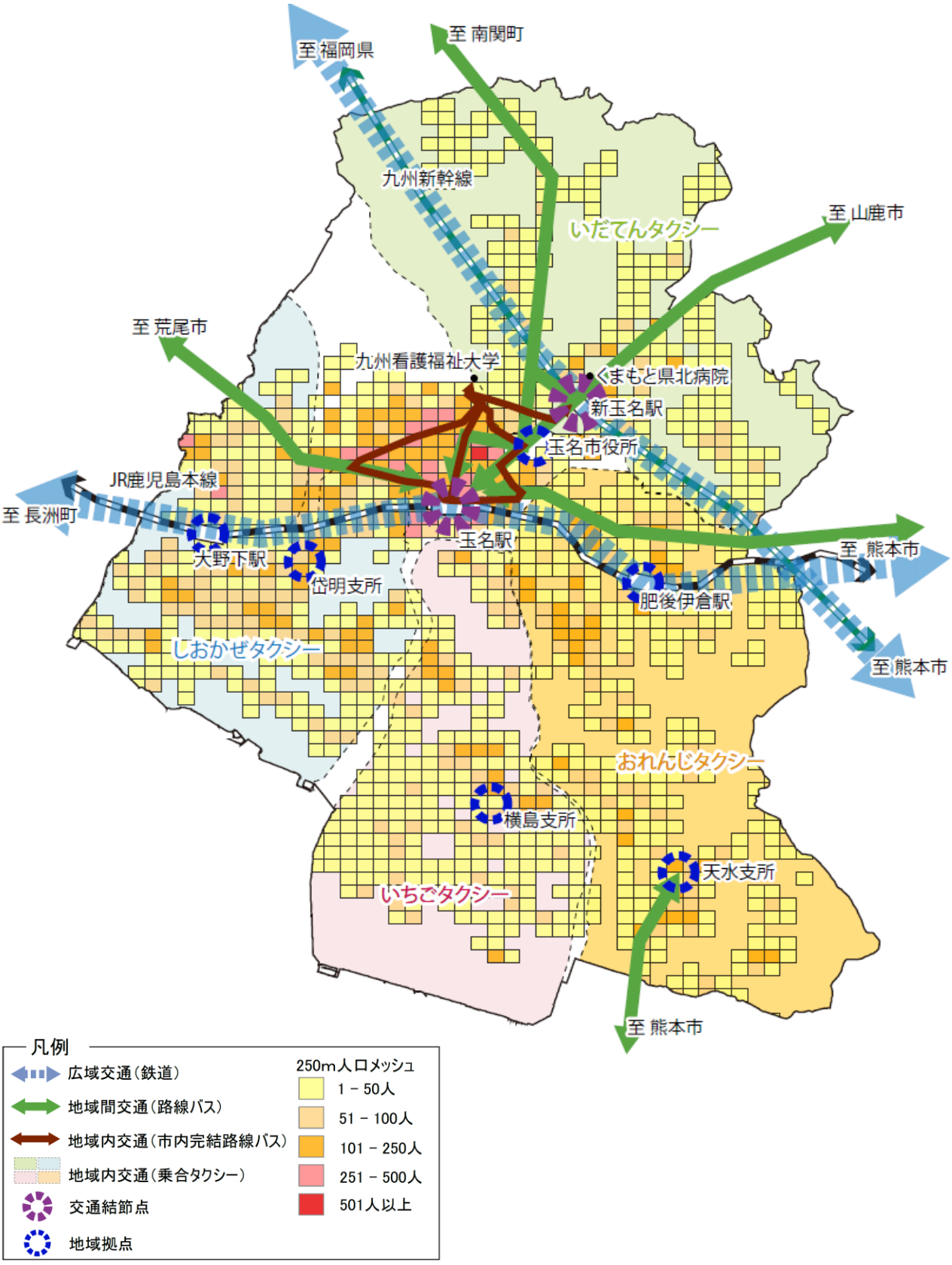
【輸送力と移動区間との関係による各地域公共交通の位置づけ】



3. 将来ネットワークイメージ

本市の地域公共交通は、現在のネットワークを維持しつつ、以下に示すとおり機能分担を図りながら、更なる利便性の向上を目指します。

【将来ネットワークイメージ図】



【具体的な確保･維持策】

位置づけ	地域公共交通システム	確保･維持策
広域交通	JR 九州新幹線 JR 鹿児島本線	交通事業者と協議の上、一定以上の運行水準を確保。
地域間交通	路線バス（玉名植木線、玉名山鹿線、玉名南関線、病院南関線）	
	路線バス（玉名桜町線、小天桜町線、天水桜町線、荒尾玉名線）	地域公共交通確保維持改善事業※（幹線補助）や県市町村補助を活用し持続可能な運行を目指す。
地域内交通	路線バス（九州看護福祉大学線(玉名駅前～九州看護福祉大学)、くまもと県北病院線） 一般タクシー、乗合タクシー	交通事業者と連携した取組により、一定以上の需要を確保。
	路線バス（九州看護福祉大学線(玉名駅前～新玉名駅)、玉名市街地循環線）	地域公共交通確保維持改善事業（フィーダー補助）を活用し持続可能な運行を目指す。
補完交通	新たな交通手段 外出支援サービス	地域住民、交通事業者と協議の上、利用ニーズに応じた運行水準を確保。

4. 評価指標の設定

計画目標に応じた評価指標と目標値を以下のとおり設定します。

なお、評価指標の目標値は、今後、人口減少・高齢化の進行が見込まれることを踏まえ、設定しています。

【評価指標と目標値の設定】

計画目標	評価指標	定義	現況値 令和4年度	目標値 令和10年度
1 既存の地域公共交通を基本とし、持続可能で移動ニーズに即したネットワークの形成				
	収支率	・路線バスの収支率 ・乗合タクシーの収支率	34.0% 9.0%	36.1%以上 18.9%以上
	・路線バスの収支率は、補助対象路線について、新型コロナ感染症拡大前の令和元年度の数値を目安とし、更なる利用促進を想定し設定。数値は玉名市統計データ（経常収入/経常費用）から毎年整理する。 ・乗合タクシーの収支率は、新型コロナ感染症拡大前の令和元年度の数値(みかんタクシーを除く)を目安とし、更なる利用促進を想定し設定。玉名市統計データ（利用料金/市の支出）から毎年整理する。			
	財政負担額	・路線バスと乗合タクシーの運行に係る市の実質財政負担額	117,942千円	117,942千円
	・実質財政負担額は、移動サービスの維持と利用促進を図ることで財政負担の効率化を図りつつ、現状負担額を維持する。数値は玉名市統計データから毎年整理する。			
	玉名市地域公共交通全体の総合的な満足度	・市民アンケートにおける玉名市地域公共交通全体の【満足・やや満足】と回答した割合	16.0%	20.0%以上
	・満足度については、市民の 20.0%以上が公共交通に満足している状況を目指し設定。数値は市民アンケート調査において評価する。			
	外出時に交通手段がなくて困ることがあると回答した人の割合	・市民アンケートにおける外出時に交通手段がなくて【困ることがある】と回答した割合	14.3%	10.0%以下
	・外出時に交通手段がなくて困ることがあると回答した人の割合が市民の 10.0%以下となることを目指し設定。数値は市民アンケート調査において評価する。			
2 利用促進及び認知度向上を図り、未来へつなぐ地域公共交通の実現				
	地域公共交通利用者数	・鉄道駅の乗車人員 ・路線バス利用者数 ・乗合タクシー利用者数	2,838人/日 486千人/年 12,440 人/年	3,652 人/日 547 千人/年 18,500人/年
	・鉄道駅の乗車人員は、新型コロナ感染症拡大前の令和元年度の数値を目標として設定。数値は JR 九州公表資料から毎年整理する。（肥後伊倉駅は公表データなし） ・路線バス利用者数は、令和3年から4年にかけて約4%回復していることや、路線の廃止状況をふまえ、年2%上昇を目標として設定。数値は玉名市統計データから毎年整理する。 ・乗合タクシー利用者数は、新型コロナ感染症拡大前の令和元年度の数値(みかんタクシーを除く)を目標として設定。数値は玉名市統計データから毎年整理する。			
	乗合タクシーの認知度	・市民アンケートにおける【乗合タクシーを知らない】と回答した割合	36.9%	20.0%以下
	・乗合タクシーを知らないと回答した人の割合が市民の20.0%以下となることを目指し設定。数値は市民アンケート調査において評価する。			
3 多様な関係者等との連携による地域公共交通の確保・支援				
	他分野との連携	・観光や商業・教育等と連携した取組	－	1件以上
	・他分野との連携の取組について、1件以上大学・高校や企業、商業施設等と連携した利用促進事業を実施することを目指し設定。数値は実際の実績より整理する。			
	新たな移動手段の導入可能性の検討	・地域住民主体での運営する地域公共交通等、新たな交通手段の導入検討事例	－	1地域以上
	・新たな交通手段の導入について、1地域以上検討していく事を目指し設定。数値は検討実績より整理する。			